



生徒の皆さんへ

一昨年度に引き続き、皆さんに伝える新たなメッセージとして「校長室だより」を今年度も継続します。日々、学校内外で感じる事、嬉しい事、伝えたいことなどを、ありのままに発行(月1回程度)できたらと考えています。

内容的には皆さんの興味関心とは違う内容もあるかもしれませんが、一読してもらえればうれしく思います。なお、この便りには保護者向けの内容もありますので、生徒の皆さんは本紙の家庭への持ち帰りをお願いします。 室屋 洋一

NOを言わない沖高

皆さんは自分が通う「沖永良部高校」をどう読みますか?当たり前のことを聞いて申し訳ないが、この島はおきのえらぶ島なので「おきのえらぶ高校」と読む島民の方は多いのかもしれない。確かに、名称として「タラソおきのえらぶ」や「おきのえらぶ島観光協会」など「おきのえらぶ」と名の付く施設や団体も多い。しかし、知名町にあるホテルは「おきえらぶフローラルホテル」となっており、混同するもの無理はないと感じる。

あらためて、沖永良部高校の正式名称は「の」を発音しない「おきえらぶ高校」である。何を隠そう私自身も教えられて初めて意識するようになった。それ以来、私は他人に学校を紹介する時に、分かりやすく「NO」を言わない「おきえらぶ高校」ですと紹介している。言い方によっては「いいえ」を言わないことになる。他人から頼まれ事をされた場合、つつい煩わしさから「NO」と言いたくなるが、「頼まれごとは試されごと」ともいわれる。人は困っているから頼み事をする。その困った人の頼み事を断ってしまえば、その人はもう頼み事をしてこなくなる。そのような姿勢では当たり前だが、自分が困った時も、その人は助けてくれない。つまり、「頼まれ時は試され時」なので、「いつでもNOを言わない」のは無理があるが、できる限り「はい、よろこんで」と言いたいものである。

一方、『「NO」と言える日本』という書籍が1989年に、最近、亡くなられた石原慎太郎氏とその当時ソニー会長であった盛田昭夫氏の共同執筆で出版された。日米貿易摩擦の時代に、石原は日本は米国に対して自分自身の権利や意見をより主張すべきであると論じ、盛田は日本が世界のリーダーとしての役割を自覚して更なる工夫が必要だと論じた。その後、日米貿易摩擦は両国経済状況のバランス変化によって解消されていくが、NOを言うべき時には主張することも大切であり、YESマンでは困るのである。

総じて、最初からNOと言わず、できるならばチャンスと物事を捉えたい。年度初めにあたり、何事も挑戦する姿勢の沖高でありたい。ちなみに沖高OKIKOという愛称は、NOの有無によらない愛すべき呼び方とあらためて感じる。



沖高には皆さんにとっておきの素敵な場所があります。
それは他校に引けを取らない蔵書を誇る「図書室」です。
皆さんにピッタリの素敵な本がたくさんあります。
本は、あなたと常に走ってくれる伴走者にもなります。
良き本との出会いは人生を豊かなものにしてくれます。
是非とも、図書室に足を運んで本を手にとってください。

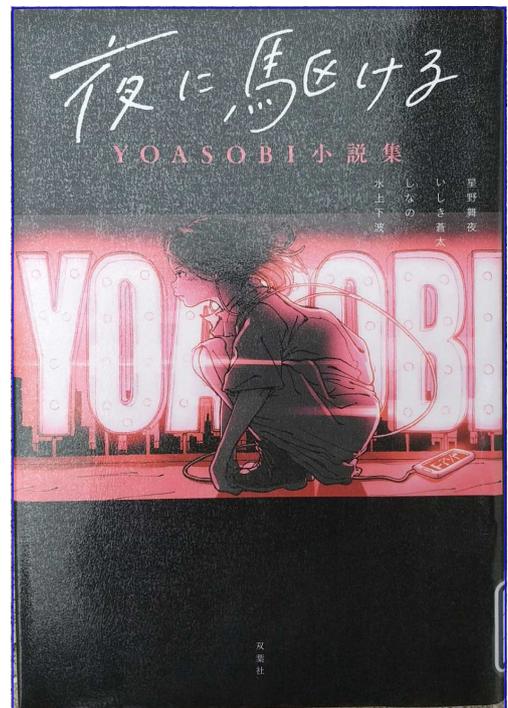
読書への誘い（本校図書室に置いてある本） 「夜に駆ける YOASOBI 小説集」

星野舞夜 いしき蒼太 しの 水上下波 著 双葉社

この書籍は、小説を音楽にする人気ユニット YOASOBI の原作小説を収録した一冊である。
『夜に駆ける』『あの夢をなぞって』『たぶん』『アンコール』の4編が書かれている。

この小説は大反響を呼び、「歌詞の深い意味がわかった!」「読んだら曲のイメージが変わった!」などの声が多く聞かれ、たかが数ヶ月で16刷の重版部数を誇る。

Ayaseさんによると「楽曲からでも、小説からでも、映像からでもいい。入口がたくさんあることが重要なんです。楽曲、小説、映像が組み合わさって、ひとつの作品になっていますから、他の作品にも触れてほしい」としている。さすが「小説を音楽にする」というコンセプトを持つYOASOBIらしいコメントである。YOASOBIの楽曲が好きな人もそうでない人も、まずは興味本位で手に取ってみたらいかがだろうか。とても軽く一気に流し読みできる作品なので、読み終わった後に、音楽と原作小説とミュージックビデオを合わせて楽しめる一冊である。ぜひ一読を。



保護者の皆様へ

本日、全学年揃っての高校生活スタートしました。御自宅でのお子様の様子はいかがでしょうか。特に、新入生の保護者の皆様は御心配が絶えないことと拝察申し上げます。保護者の皆様にも、沖高への御理解、御協力をいただくために、稚拙な内容ではありますが、昨年に引き続き今年度も「校長室だより」を御高覧いただければ幸いです。何卒、今後とも、お子様の健やかな成長と沖高の更なる発展、ひいては沖永良部島の繁栄ならびに活性化のために、本校PTA活動を軸に、連携・協力していただきますよう宜しくお願い申し上げます。